

20211103

南熱海マリンホール

世界遺産平泉からみた走湯権現関連遺跡群

平泉町役場 八重樫忠郎

走湯権現関連遺跡群の実像

海に面した広大な信仰の山 ⇒ 霊山

お経を埋めた多数の塚があった ⇒ 清浄な空間

御堂があった ⇒ 僧侶の存在

⇒ 生者の世界

500 近くの墓があった ⇒ 異界への入口

墓は土葬と火葬 ⇒ 仏教における四葬

⇒ 火葬 → 土葬 → 水葬 → 遺棄葬

多数の石塔 ⇒ 視覚的に認識できる

古美道遺跡の意味

出土遺物から時期は 11 世紀から 17 世紀

11～12 世紀代は墓はない？ ⇒ 信仰の場

静岡県内では例のない越州窯青磁水注の存在

墓は 13 世紀後半から ⇒ 火葬墓

土葬の始まりは 16 世紀から？

発掘された中世墳墓群としては、国内最大級のものである。

走湯権現関連遺跡群の価値

伊豆山神社や日金山東光寺は現存している

景観は今も変わっていない

伊豆山神社の経塚はおそらく現存している

聖なる場としての経塚、寺社、景観そして死者の世界の古美道遺跡の記録と出土遺物がセットで残っている。

中世の信仰を表す第1級の遺跡

走湯権現関連遺跡群のその後

経塚の現況等の調査が必要

古美道遺跡の啓発のための展示

中世考古学者に情報提供

⇒間違いなく全国から集まる ⇒学術的な評価が定まる

⇒温泉を絡めた中世の死生観コースなど、

観光のコンテンツの一つとする

市町村PRすべてが自然や歴史文化

土石流からの重要な復興のアイテム